

# あきたの 地域医療通信

2017年9月 第28号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



湯沢・雄勝地域の認知症疾患医療センターに指定された菅医院。高齢化の進む地域のかかりつけ医として地域医療に貢献している菅医院の菅康德先生にお話を伺いました。

## Q1. 脳神経外科を志した理由について

**A.** 最初は救命救急を志し、岩手医科大学附属病院の救命救急センターに所属して救急医療に取り組んでいました。岩手医科大学附属病院は、三次救急で重度熱傷まで対応するので、様々な症例に接する機会がありましたが、その中で、頭部外傷や脳の治療を多く経験し、しっかりと治療できるようになりたいと思い、脳神経外科の医局に入局しました。

それから専門的な技術や知識の習得に努めていく中で、外傷性の脳損傷だけでなく、生活習慣など様々な要因により発症する脳疾患についても知見を深めたことが、現在、地域医療の現場で、認知症の治療などに活かされています。

## Q2. 総合病院と現在の勤務の違いについて

**A.** 総合病院にいる間は、どうしても「総合病院に来る患者が全て」と思い込んでしまいがちでしたが、地域医療の現場である当院に赴任して、改めて実感したのが、総合病院に来院する患者さんは「全ての患者さんの中のほんの一部でしかない」ということです。地域医療の現場では、様々な病気を抱えた数多くの患者さんと接するため、総合病院と比べると、医師として非常に幅広い知見を要求されます。そのうえで、数多くの患者さんの中から、当院で治療していくことができる方、または総合病院での



菅医院の外観

集中治療が必要な方を見極める必要があります。他の医師に相談できる機会も少ないため、地域医療の現場で医師にかかる責任は大きくなります。



医療法人せいとく会  
菅医院 院長  
菅 康德 先生

## 【プロフィール】

秋田県湯沢市出身。  
岩手医科大学卒業後、岩手医科大学附属病院や岩手県内の総合病院での勤務を経て、平成22年より当医院院長へ就任。専門は脳神経外科。

また、地域医療は、医療行為だけでなく、地域にない治療、地域のことを知っていなければならない治療があります。患者さんの住



待合室に飾られているぼんでん  
環境や家族状況、経済的事情など、様々な情報を行政や包括支援センター、ケアマネージャー等と共有する必要があります。このような面では医師がリーダーシップを発揮して多職種連携を積極的に行うことが要求されるため、総合病院のときは異なり、現在は地域医療を担う役割を果たしています。

## Q3. 地域医療の魅力について

**A.** 責任が重く、やるべきことも多い一方で、家庭の事情など患者さん一人ひとりの環境に応じたオーダーメイドの医療を提供できることが魅力であり、大きなやりがいを感じています。

特に、患者さんやそのご家族が望んだとおりの生き方ができるように見守るのは、地域医療の現場でなければできないことがあり、それができたときの充実感はとて

も大きいと感じています。

#### Q4. 診療にあたって常に心がけていることは？

A. 患者さんの治療にあたっては、自分の家族だったらどうするか、と問いかけながら治療方法を考えています。これは岩手医科大学附属病院時代に恩師から教えていただいた考えであり、単に第三者として、目先の治療方法だけを考えるのではなく、どこまでの治療を行うことが患者さんのハッピーに繋がっていくのかを考えながら、患者さんに合った治療方法を提案するように心がけています。

また、地域医療の現場では、自分が診療できる範囲を見極め、必要なときには総合病院に治療を引き継ぐことも重要です。専門科はもちろんのこと、専門科に限らず幅広い症例の知識を増やし、知見を深めることで、疾患を選ばず、何にでも対応できるよう取り組んでいます。

#### Q5. 医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. 医学生の皆さんには、とにかく医師免許を取得するために必要な知識の習得に努めることをお勧めします。医師免許を取得しないことには、医師としてスタートすること

ができませんので、まずはとにかく勉強を頑張ってください。

研修医、若手医師の皆さんには、自分の医師としての将来像をイメージし、そこに至る設計図を頭の中で描きながら、臨床研修などそれぞれの現場で、知識や経験を積んで欲しいと思います。私は「将来はこの病院に戻る」という将来像があり、その前提で様々な知識や経験を積んできました。それが、今の医療現場でいろいろなかたちで役立っています。

もう一つ、それぞれの現場でも、目指すべき医師像を明確にし、その姿を目標に取り組むことが効果的です。私自身、岩手医科大学附属病院では、救急科でも脳神経外科でも尊敬できる恩師に恵まれ、その恩師の姿を目指すべき医師像として、その姿に近づけるようにと努力してきました。

地域医療に携わると、どうしても医療中心の生活となってしまいますが、やりがいもある現場です。是非、医学生・研修医・若手医師の皆さんも、一度、当院などに足を運んでいただき、実際の地域医療の現場がどういふところなのか体感してみてください。

## 指導医講習会を開催しました

今年も6月30日(金)～7月1日(土)の2日間、大瀧村のホテルサンルール大瀧を会場に「第14回医師臨床研修指導医ワークショップ」を開催し、国立国際医療研究センター医療教育部門の村岡亮先生、中京大学法科大学院の稲葉一人先生、宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座の吉村学先生などからご講義いただきました。また、参加者は積極的なグループワークやロールプレイを行い、指導医としての磨きをかけ、夜の交流会では、日頃の診療などに係る情報交換も行われました。



## 地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナーを開催しました

8月19日(土)に、自治医科大学生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業医師等を対象とするキャリアアップセミナーを開催しました。

第1部の講演会では、滋賀県東近江市永源寺診療所長の花戸貴司先生に「住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために～永源寺の地域まるごとケア～」と題してご講演いただきました。

第2部のグループ討論・発表会では、「地域医療を支えられる医師に求められること」、「総合医の役割と養成」をテーマに討論し、様々な意見が出されました。

また、第3部の情報交換会では、食事をとりながら医師と医学生が、病院や大学、世代の垣根を越えて地域医療について話し合い、大変有意義なセミナーとなりました。



## 秋田県職員医師を募集しています。

秋田県内の自治体病院等で診療に従事していただける医師を県職員として採用します。

勤務期間は  
4年間で1単位

- ◎3年間は県内の自治体病院等に勤務
- ◎残りの1年間は希望する医療・研修施設において、有給の研修・研究が可能

ご連絡いただければ、  
直ちに資料を  
お送りします

お問い合わせ：秋田県健康福祉部医務薬事課医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号  
TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883 E-mail:ishikakuho@pref.akita.lg.jp

# イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/メール)	
10月	1日(日)	医学WILLs秋田2017	医学生 ※定員20名	AP品川 (東京都品川区)	秋田県医師確保対策室 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref.akita.lg.jp
	14日(土) ～ 15日(日)	第9回日本医師会 「指導医のための 教育ワークショップ」	医師	秋田県医師会 会議室 (秋田市)	秋田県医師会生涯教育委員会 TEL:018-833-7401 MAIL:kuromaru@akita.med.or.jp
	28日(土)	医学生のための臨床推論 パワーアップ実践セミナー	医学生 (4～5年) ※定員20名	秋田大学医学部附属病院 シミュレーション 教育センター (秋田市)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 MAIL:ishikakuho@pref.akita.lg.jp
11月	10日(金) ～ 11日(土)	第11回レジデント スキルアップキャンプ2017	初期研修医	サンルーラル大潟 (南秋田郡大潟村)	
	25日(土)	第6回全国シンポジウム 「日本の国情・2次医療圏 の実情を熟考して理想的医 師・医療者育成教育の展開 を考える2017」	医師、看護師、 薬剤師、医療従 事者、教育関係 者、行政関係者 、学生 ※定員200名	秋田大学医学部 40周年記念会館 本堂記念講堂 (秋田市)	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL・FAX:018-884-6226 MAIL:commed@med.akita-u.ac.jp

## 秋田大学医局紹介

### 秋田大学大学院医学系研究科医学専攻 機能展開医学系 脳神経外科学講座

当科では、国民病とも言える脳血管障害(脳卒中)をはじめ、脳腫瘍、頭部外傷など多くの病気を対象として診療を行っています。脳血管障害では、くも膜下出血、未破裂脳動脈瘤、頸部内頸動脈狭窄症、バイパス術をはじめ、手術難易度の高い脳動脈瘤や脳動静脈奇形を全県からご紹介いただき治療しており、術中モニタリング、血管撮影、神経内視鏡を用いて安全性、確実性の向上に努めています。

最近では脳血管内治療専門医の育成にも注力し、急性期脳梗塞、高齢者くも膜下出血などの治療に大きく貢献しています。脳腫瘍は全県からご紹介いただき、秋田県におけるセンター的役割を担っています。グリオーマ、髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腫瘍などに対する手術、薬物療法、放射線治療を組み合わせ、関連する内科、小児科、放射線科などとともに集学的治療を行っています。当科では、大学病院と関連病院とが連携して、ローテイトシステムの中で多くの症例を経験しながら必要な基礎知識と技術を習得し、将来、臨床の様々な側面で指導的立場に立ちうる脳神経外科専門



医の養成を目指しています。

医学生・研修医の皆さんには、脳神経外科の魅力や脳神経外科医の多様なキャリアパスを知っていただけるように努力したいと思います。カリキュラムに沿った講義や実習だけでなく、講演会や手術練習のハンズオンなどにも参加いただければと思いますので、興味を持たれた方は、是非気軽に下記まで連絡をください。

#### 問い合わせ先

秋田大学大学院・脳神経外科学講座

医局長 小田 正哉

Tel: 018-884-6140

e-mail: nogeka@med.akita-u.ac.jp

HP: <http://www.med.akita-u.ac.jp/~noushin/>

医局構成員: 医局員10名(指導医7名、後期研修医3名)

# 指導医メッセージ

大館市立総合病院  
放射線科  
篠原 敦 先生



20年前、Mayoクリニックに短期留学しました。当時は人口5万人強、住民の半分以上は病院関係者とその家族という企業城下町で娯楽の乏しい町にある病院でした。私は放射線診断の勉強をしていたのですが、たとえ多量の日常

## 研修医メッセージ

由利組合総合病院  
南塚 祐介 先生  
(日本大学・東京都出身)



私は東京都出身で、日本大学を卒業後2017年4月より由利組合総合病院で初期臨床研修を開始しています。自分自身、秋田県とは縁もゆかりもなく、秋田に知り合いがいるわけでもありませんでした。当院を合同病院説明会で知り、実際に見学は何回か訪れたのですが、病院内の雰囲気・研修医の先生方の雰囲気がとても良く、ここでなら楽

業務が残っていても、研修医が定刻になると業務から開放されていることに驚き、「日本じゃ仕事が残っているのに部下が先に開放されるというのはあり得ない」と話したところ、「業務から開放されても研修医は決して遊ぶわけではなく、むしろ集中して勉強するよ」と、あくまでも自主的に勉強することが当然と見なされていました。

当院が位置する大館市の人口は7万人強、娯楽の少なさと豊かな自然に囲まれた環境はMayoクリニックとさほど変わりません。秋田県内の秋田市以外に位置する病院もおおむね似たようなものではないでしょうか。Mayoクリニックが田舎町にあり、今も尚一流の病院であり続けることは、静かな町で研修することがハンディキャップとはならないことを証明しているような気がします。

MESSAGE

しく、しっかり研修できると思いこの病院に決めました。

実際に研修が始まると、指導医の先生方にフォローしていただきながら、いろいろなことをやらせていただいたり、熱く指導していただいたり毎日充実しています。同期や先輩、看護師さんや技師さんなどとも和気あいあいとしながら研修しています。サークル活動もあり、仕事以外でも体を動かす機会も多々あります。ただ、方言がわからないという悩みはありますが、そのときは患者さんや看護師さんに教えてもらっています。

病院選びに迷っている方がいましたら、一度見学にいらして下さい。百聞は一見にしかず、です。



## 藤原記念病院

〒010-0201 湯上市天王字上江川47 TEL:018-878-3131 HP:<http://www.fujiwarahsp.or.jp/>

当院は、秋田市の北隣、湯上市天王に位置し、地域密着型の医療機関として、急性期疾患から、慢性期疾患まで、地域の方々の医療ニーズに応えるべく約40年にわたり努力を続けてまいりました。

創立時から、周辺地域の医療機関や秋田市の高次医療機関との連携を密に行い、院内では専門の医師、看護師を始めとする各スタッフが患者さんを中心とした医療を提供することを第一に心掛けてまいりました。

また、高齢社会を迎え、病気や障害を抱えながらも住民の皆様が地域に根差した生活を送ることが出来るようにと考えております。

そのために、提供する医療の質や安全性を継続して高める努力をしながら、安心して利用できる設備を整え、正確で適切な対応のできるスタッフを育て、周辺の医療機関や福祉施設との連携をますます深めることにより、患者さんならびにご家族に満足していただける医療サービスを提供することを通じて、ますます皆様から信頼していただける病院になることを目指しております。

### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail : [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410

